

【脊椎領域医療機器】新製品のお知らせ

脊椎内視鏡手術用「SYNCHA 内視鏡システム」

- 「SYNCHA 内視鏡システム」は、腰椎椎間板ヘルニアや腰椎脊柱管狭窄症における除圧術を目的とした内視鏡を用いた医療機器です。

KiSCO株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長:中路 歩、以下「KiSCO」)は、脊椎内視鏡手術に用いる「SYNCHA内視鏡システム」の販売を開始しました。

腰椎椎間板ヘルニアや腰椎脊柱管狭窄症の治療として、脊柱管に飛び出した髄核(ヘルニア)や脊柱管を狭くしている骨や靭帯や椎間板を削り、脊柱管を拡大する除圧術が行われます。従来の方法では背中を10~15cm切開しヘルニアの摘出や、脊柱管拡大が行われます。

「SYNCHA内視鏡システム」は、直径16mmの円筒型レトラクターを用いるため、従来のような大きな切開は必要とせず、16mmの切開で行う事により低侵襲に腰椎椎間板ヘルニア摘出や脊柱管拡大を行うことが出来、患者さんのQOL向上に貢献します。

国内では約20年前から脊椎内視鏡の手術が行われてきましたが、この度、国内での手術においてこれまで蓄積された知見を取り入れ「SYNCHA内視鏡システム」を開発しました。機器の操作性及び術者の視認性を改善することにより、脊椎内視鏡下手術をサポートします。

KiSCOは、本製品が新たに加わることで、より幅広い医療ニーズに対応が可能となり、患者さん、医療関係者に貢献できると考えています。今後も革新的な製品開発による市場創造を通じて、世界の人々の健康に貢献してまいります。

<SYNCHA の概要>

一般的名称	硬性手術用ランバースコープ
販売名	硬性手術用ランバースコープ (医療機器認証番号:301AFBZX00030000)
使用目的	後方傍正中アプローチにおける腰等の観察、診断又は治療のための画像を提供すること。ただし、中枢神経系に使用するものを除く。
認証日	2019年8月16日

<SYNCHA 製品写真>

<製品イメージ>

製品写真	製品イメージ
	